修士論文（要旨）
２０１１年１月

香港における成人日本語学習者の学習継続プロセス

指導　宮副ウォン裕子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
209J3005
三國喜保子

目　次

第１章　研究の背景と目的
1.1　研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1.2　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1.3　先行研究の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
1.4　用語の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第２章　調査概要と分析方法
2.1　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2.2　分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第３章　香港における日本語の民族言語的バイタリティー
3.1　日本語の地位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
3.2　日本語話者の分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
3.3　制度上の支援体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3.4　香港における成人日本語教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第４章　学習継続のプロセス
4.1　概念生成の例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
4.2　プロセス全体の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
4.3　学習継続に関わる諸要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
4.4　諸要因間の関連　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

第５章　総合的考察
5.1　学習継続に影響を与える諸要因とその相互作用　・・・・・・・・・・・・ 40
5.2　成人学習者にとっての日本語学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
5.3　学校教育以外の場における日本語学習・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

第６章　本研究のまとめ
6.1　本研究で明らかになったこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
6.2　本研究の限界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
6.3　本研究の貢献と意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
6.4　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

謝辞
参考文献
巻末資料

要旨

【キーワード】成人学習，学習継続，香港，プロセス，自己決定学習

本研究は，香港の成人日本語学習者の学習継続に焦点を当て，学習継続に対する学習者の認識とそれに関わる諸要因の関連から，学習継続のプロセスを明らかにすることを試みた研究である。現在，多くの国・地域で日本語教育が行われているが，学びの場はいわゆる「学校」にとどまらず，民間のカルチャースクールや職場，地域社会などにも拡大している。海外の民間の語学学校などでは，趣味・娯楽として長期間にわたって日本語を学習し続けている人も多く存在するが，一見実用性に乏しい日本語を長い間学習し続けているのはなぜだろうかという疑問が本研究に取り組むきっかけとなった。

国際交流基金(2006)の報告によると，学校教育以外の機関における学習者数が多い国・地域は，多い順に中国，韓国，香港となっている。しかし，中国，韓国は学習者の総数が多いため，全体としては学校教育以外の機関で学ぶ学習者の割合は少ない。一方，香港では日本語学習者全体の 70%以上が学校教育以外の機関で日本語を学んでおり，その数も1997 年の中国返還以降著しく増加している(国際交流基金 2006)ことが報告されている。

そこで，本研究では以上のような特徴をもつ香港に焦点を当て，学校教育以外の機関における日本語学習のもつ意味を探ることとする。具体的には，次の２点を研究課題とする。(１)香港における成人日本語学習者の学習継続に対する認識や考え方に影響を与える要因はどのようなもので，諸要因はどのように関連しているのか，(２)香港における成人日本語学習者の学習継続に対する認識や考え方はどのようなものか。以上２つの観点から，香港における成人日本語学習者が日本語とどのように向き合い，学習を継続させているのかについて，その学習継続プロセスを明らかにすることを本研究の目的とする。

調査対象者は，香港の学校教育以外の機関において日本語を学習中，あるいは学習していた経験をもつ成人である。香港において質問紙調査およびインタビュー調査を行い，フィールドノーツをつけた。質問紙調査の対象者は任意の 60 名とし，その中の 10 名をインタビュー協力者とした。質問紙の回答結果およびフィールドノーツの分析には「民族言語的バイタリティー(ethnolinguistic vitality)」(Giles 他 1997)を概念的枠組みとして用い，インタビューデータの分析には修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下 2007)を援用した。

インタビューデータの分析結果から，香港の成人日本語学習者の学習継続プロセスは 19 の概念から構成されており，それらの概念は有機的な繋がりをもっていることが明らかになった。19 の概念は＜身近な「日本」＞，＜「日本」への関心＞，＜学習の成果＞，＜積極的な関与＞，＜悩み，迷う体験＞，＜自己の理解＞という６つのカテゴリーに分類され，①学習の意味づけを行い，自己の理解を深めていく過程，②自己の理解を深めていく過程を支えるサポート関係，という２つの流れを形成していることが示された。学習の意味づけを行い，自己の理解を深めていく過程は，学習継続に伴う学習者の試行錯誤のプロセスであり，個々の学習者が日本語学習を内省し，学習する意味を見出していく過程であると考えられる。また，そのプロセスを支えている要因には，７万人を超える日本語スピーチ・コミュニティー(宮副 2007)をはじめ，周囲に溢れている日本文化の存在が挙げられる。心

理的・情意的・地理的な親近感が，個々の学習者にとってのエンパワーメントとして機能し，学習継続の原動力となっていることが示唆された。

分析結果から浮かび上がった全体のプロセスを踏まえ，香港の成人日本語学習者の学習継続は，＜身近な「日本」＞の存在や＜学習の成果＞など他者との関わりの中で支えられながら，学習への＜積極的な関与＞を行い，＜悩み，迷う体験＞をしながらも，学習者一人ひとりが＜自己の理解＞を深め，更新していくプロセスであることが明らかになった。以上のことから，香港における成人日本語学習者の学習継続プロセスは，社会文化的文脈の中で個々の学習者が学習することに「価値」を見出し，「一人ひとりの中で変化と成長をもたらすプロセス」（クラントン 1999: 75）であると考えられる。

本研究では，日本語の学習継続全体のプロセスを提示することで，これまで断片的に捉えられることの多かった日本語学習への意欲や動機づけに関わる要因をプロセスの中に示し，諸要因間の関連を示した。また，これまでの成人日本語教育に関する研究の多くは大学などの高等教育機関の学生が主な研究対象であり，学校教育以外の機関で日本語を学ぶ成人学習者に関する体系的な研究の蓄積は乏しい。本研究では香港における成人日本語学習者の学びに着目し，成人学習者にとっての日本語学習は単なる言語の学習にとどまらず，学ぶことによって自己の理解を深め，自己決定学習（Self-Directed Learning，ノールズ 2002）を促していることを実証的データの考察から指摘した。

主要参考文献

木下康仁(2007)『ライブ講義 M-GTA―実践的質的研究法　修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂

クラントン，パトリシア(1999)『おとなの学びを拓く―自己決定と意識変容をめざして』入江直子，豊田千代子，三輪建二(訳)凰書房（原著　Cranton, P. A.（1992）*Working with Adult Learners*, Toronto: Wall & Emerson）

クラントン，パトリシア(2004)『おとなの学びを創る―専門職の省察的実践をめざして』入江直子，三輪建二(監訳）凰書房　（原著　Cranton, P.(1996)*Professional Development as Transformative Learning*. San Francisco: Jossey-Bass）

クルマス，フロリアン(1993)「第２章　言語の価値―言語の経済的側面を形成する諸要因」諏訪功，菊池雅子，大谷弘道(訳)『ことばの経済学』大修館書店　55-112.（原著　Coulmas, F.(1992)*Die Wirtschaft mit der Sprache*. Suhrkamp.）

ノールズ，マルカム(2002)『成人教育の現代的実践 ： ペダゴジーからアンドラゴジーへ』堀薫夫，三輪建二(監訳)鳳書房（原著　Knowles, M.(1980)*The modern practice of adult education: From pedagogy to andragogy*. Upper Saddle River, NJ: Cambridge Adult Education.）

宮副ウォン裕子(2007)「多言語スピーチ・コミュニティー香港における日本語の学習・教育―Connections, Cultures, Communities からの一考察―」『日本語教育』133 号，38-45.

Brookfield, Stephen D. (1986)*Understanding and facilitating adult learning*, San Francisco: Jossey-Bass

Dörnyei, Z., & I. Ottó(1998)Motivation in action: A process model of L2 motivation. *Working Papers in Applied Linguistics,* London: Thames Valley University

Giles, H., Bourhis, R. Y., & D. M. Taylor (1977) Towards a theory of language in ethnic group relations. In Giles, H. (Ed.), *Language, ethnicity and intergroup relations*, London: Academic Press. 307-348.

Humphreys, G., & Y. Miyazoe-Wong(2007)"So What Is the Appeal?" The Phenomenon of Japanese as a Foreign Language in Hong Kong, *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, Vol. 28:6, 468-483.

Marriott, Helen., Neustupny, J.V.,& Spence-Brown, Robin(1990)*Unlocking Australia's language potential : Profiles of 9 key languages in Australia: Volume 7-Japanese*. Canberra: National Languages & Literacy Institute of Australia

Norton, B. (2000) *Identity and Language Learning: Gender, Ethnicity and Educational Change*, London: Longman Harlow, Essex, England: Pearson Education

参考 URL／辞典

国際交流基金＞日本語教育＞調査研究・情報提供＞国・地域別の情報＞日本語教育国別情報＞2009 年度＞＜香港＞（2010 年 5 月 5 日参照）
http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2009/hongkong.html

国際交流基金＞日本語教育＞調査研究・情報提供＞海外日本語教育機関調査
『海外の日本語教育の現状＝日本語教育機関調査・2006 年＝概要』（2010 年 5 月 29 日参照）http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/gaiyo2006.pdf